

国語（第1回）

			得点率(%)	平均点	配点
1 説明文	問1		51.6	3.6	7
	問2		26.8	1.9	7
	問3		33.0	1.0	3
	問4		39.5	2.8	7
	問5		78.3	6.3	8
	問6		8.3	0.2	3
	問7		89.8	9.0	10
	問8		86.5	4.3	5
				29.1	
2 物語文	問1		66.3	4.6	7
	問2		41.0	2.9	7
	問3		49.8	2.0	4
	問4		40.7	2.8	7
	問5		43.4	3.0	7
	問6		99.1	7.9	8
	問7		99.2	5.0	5
	問8		77.0	3.9	5
				32.1	

一 鷺田清一『悲鳴をあげる身体』

問一 「火がしばしば文明の象徴とされる」理由について述べる問題です。「獲物や採取物を調理する」「調理は人間生活におけるもっとも基礎的な行動である」「調理には火が必要である」という3つの要素を盛り込む必要があります。1つから2つの要素にとどまる解答が大部分でした。正答率は約51%でした。

問二 筆者の問題意識を説明する問題です。ひとが調理を自らの手で行わなくなった結果、どのような問題が生じたかと筆者が考えているかを説明する問題です。ところが、誕生や病いや死など、この設問で問われていないことに対して答えてしまった解答が多く見られました。また、主語が抜けてしまったり、文末表現が正しくできていない答案も散見されました。正答率は約26%と低めでした。

問三 前後の文脈から空欄を補充する問題です。正答率は約33%でした。

問四 解答らんの形式に合うように傍線部を説明する問題です。設問に「具体的には」「何を通じて」といった指示がありましたが、それをうまく解答に反映できていなかった答案が多く見られました。特に「～を通じて」とかけているものは全体の1～2割程度でした。正答率は約39%でした。

問五 接続語を選ぶ問題です。正答率は80%近く、大変よくできていました。

問六 脱文補充問題です。脱文に「宇宙的といってもいいこの単純な事実」とありますので、指示語の内容を探します。2頁上段2～3行目の「ひとつのいのちが別のいのちの火に変わる。」を指していると考えられますので、この文の直後に補充します。直後の五字は「肉や魚を切」です。正答率は約8%でした。問題文の指示は直後の五字でしたが、直前の文字を抜いてしまった解答が多かったのが惜しまれます。

問七 漢字の書き取り問題です。90%近い生徒が正解できていました。多かった書き間違いは、「独身」を「親」「信」としてしまったり、「確」のつくりを「隹」としたり、「医院」を「委」としたものなどでした。

問八 内容一致問題です。アはひとが調理を行うようになったせいで、力強さを失ったという内容が不適当です。イは、ひとがみずから調理した食べ物を食べなくなったせいで、じぶんの身体をコントロールできなくなったという内容が不適当です。ウは下水道が完備されたために、人々が命の有限性に気づいたという内容が不適当です。エは1頁下段32行目から始まる段落の内容と合致します。よって正解はエです。約86%以上の生徒が正解できていました。

㊦ ひろのみずえ『いつまでもここでキミを待つ』

問一 傍線部(1)「な、なんでもない!なんでもないからわすれてっ!」から、奏の心情を答える問題です。物語文に共通して言えることですが、本文の話し言葉をそのまま用いてしまった答案が多く見られました。また、奏は「たいしたとりえではない」と言っているだけですが、「絵は全く向いていない」「まったくとりえではない」など全部否定にしている答案も多く見られました。正答率は約66%で、比較的よくできていました。

問二 傍線部(2)「一馬の言葉が胸をさした。」を説明する問題ですが、文末表現を「～から。」としてしまった解答が2～3割ありました。正答率は約41%でした。

問三 美術スクールの佐藤先生から、絵を描くのが好きか聞かれたときの、奏の心情について答える問題です。傍線部(3)「そっちの方が重かった」からは、不満の感情は読み取れないので、アは不適当です。イの「水におぼれそう」は一馬の様子を描写した表現なので不適当です。ウの内容は4頁上段90行目「答えられなかった。」、91～93行目「先生に、見捨てられたような気がした。まわりにいる生徒たちからは～、あざ笑われているような、そんな気がした。」といった記述と矛盾しません。よって正解はウです。4頁下段94行目に「何を問いかけられたかなんて、考えられなかった」とあるように、奏が即答しなかったのは、佐藤先生の言葉の意味が理解できなかったからではなく、何を問いかけられたか考える余裕がなくなったからなので、エは「言葉の意味が理解できず」の部分が不適当です。正答率は約49%でした。

問四 傍線部(4)「ぬるいんだよ」という一馬の発言の意図を読み取る問題です。奏、奏の母、一馬と、多くの人物が関わる部分であるため、人物関係を正しく読み取ることが出来きていない解答が多く見られました。奏自身の心のうちと、一馬が考える奏の考えをうまく整理してほしかったと思います。また、見切り発車で書き始めてしまい、最終行に字が詰まったり、主語と述語がねじれてしまったりした答案も多かったようです。余白で一度下書きをしてみたり、出来上がった答案をもう一度読み返したりするだけで、完成度が一段と増すことでしょう。正答率は約40%でした。

問五 傍線部(5)「かんたんじゃない」とありますが、何が「かんたんじゃない」のか考える問題です。否定文であるにも関わらず、「あら、かんたんじゃない!」というような、感嘆文だと勘違いして答えていた答案が多かったようです。正答率は約43%でした。

問六 ほとんどの受験生が全問正解できていました。

問七 ことわざに関する問題です。ほとんどの受験生が正解できていました。

問八 アは奏の母が「自分と同じように奏にも絵の才能がある」と考えている部分が不適当です。奏の母の絵の才能については述べられていません。イは佐藤先生が「奏には、美術系の高校は無理だと考えている。」部

分が不適當です。高校進学に関する佐藤先生の見解は述べられていません。ウは一馬が奏のことを「めざわり」だと考えている部分が不適當です。エは4頁上段75行目の奏の発言と一致します。よって正解はエです。アやウと答えた答案が目立ったものの、約77%の受験生が正解できていました。